



# ラック RAC通信


長崎県立中五島高等学校

## ～通級指導教室だよ～

第8号 令和3年2月19日発行

**這えば立て、立てば歩めの親心** すくすくと育つ子どもに期待するのが親というものでしょう。「うちの子、ハイハイしないのよ」「もう、タッチしたの?」「あの子と比べて、言葉が出てないわ」etc…子育てにおける発達の遅れはとても気になります。渦中の方々にとって、「ゆっくり育つ子もいる」「他と比べないで」「成長の範囲内です」と言っても、心配は解消しません。

高校生になった子どもに対しても、親心は変わらないところがあるかもしれません。そんな時、つい教えてしまったり、指摘や叱咤激励に終わってしまったり、代わりに手を出してしまったり



これは〇〇でしょ

◎◎はしてやっと思ったけんね

できんとね?  
☆☆さんに聞かんね

というようなことはありませんか。  
特に、ゆっくり育つ子どもに対しては、親や指導者が待つことができずに、口や手を出してしまうことが見られます。

そこはぐっと(3つ数えて)こらえて、子どもが「どこに」「どんな風に」「どうして」つまずいているのか、よく観察し分析してみましょう。

そして、  
もしかして困ってる?  
どうしたいと思ってる?  
などと言葉をかけることで、子どもは伝えようとします。その時、言葉や表現力が育ちますし、最後まで聴くことで、子どもは安心して話したり、聴いたりできるでしょう。

**発達や成長が気になるとき** 次の欄を埋めてみましょう。

強み・得意・できること	支援があればできること	弱み・苦手・できないこと

「できること」と「できないこと」だけではなく、「支援があればできること」の欄を埋めることで、どうすればできるようになるか考えるきっかけになるでしょう。

高校生という発達段階では、保護者と指導者だけでなく、本人もまじえて話すことで、生徒自身が「◎はできて●はできないけど、こうすればできるかも」と前向きに自己把握し、「困り」を相談できる姿勢が育まれると考えます。

立てば歩めの親心をもって子どもの応援団になり、応援の方法も一緒に考えていきましょう。

今年度は、コロナ禍の影響で、上五島地区の特別支援教育連携協議会が開催されなかったため、次年度に向けて、保育園や幼稚園、小中学校、高等学校の特別支援教育コーディネーター同士がつながりたいです。Web会議システムの構築が待たれます。

